

一般的な痛風治療薬が心臓発作と脳卒中のリスクを低減する可能性

新たなコクランレビューによると、広く使用されている安価な痛風治療薬が、心血管疾患を持つ人々の心臓発作や脳卒中を減少させる可能性が示されました。

本レビューでは、痛風治療薬であるコルヒチンの低用量投与の効果を検証し、重篤な副作用の増加は認められませんでした。

心血管疾患は慢性的な軽度の炎症によって引き起こされることが多く、これが心臓発作や脳卒中などの再発性心血管イベントの一因となります。コルヒチンには抗炎症作用があり、心臓病患者にとって有望な選択肢となり得ます。

心血管リスクに対する有望な効果

本レビューには、心臓病・心筋梗塞・脳卒中の既往歴がある約 23,000 人を対象とした 12 件のランダム化比較試験が含まれました。研究では、コルヒチンの 0.5mg を 1 日 1 回または 2 回、少なくとも 6 ヶ月間服用した患者を調査しました。参加者の大半は男性（約 80%）で、平均年齢は 57～74 歳でした。半数はコルヒチンを投与されたグループで、残りの半数はプラセボまたは通常の治療に加えて追加治療を受けなかったグループでした。

全体として、低用量コルヒチンを服用した患者は心筋梗塞や脳卒中を発症するリスクが低くなりました。1,000 人治療を受けたとすると、非服用群と比較して服用群は心筋梗塞が 9 件、脳卒中が 8 件減少しました。重篤な有害事象は確認されませんでした。コルヒチン服用患者では胃腸障害などの副作用発生率が高くなりました。ただしこれらは通常軽度で持続期間は短いものでした。

「心血管疾患患者 200 人（通常なら心筋梗塞約 7 件、脳卒中約 4 件の発症が予想されます）において、低用量コルヒチンを使用すればそれぞれ約 2 件ずつ予防できます。」と、共同筆頭著者であるドイツ・グライフスヴァルト大学医学部のラミン・エブラヒミ博士は述べています。「この治療法は、持続的で生涯にわたる心血管リスクを抱えて生活する患者にとって、真の差をもたらす可能性があります。」

長年使われてきた薬の新たな用途

心血管疾患が世界的な死因の首位を占める中、コルヒチンは高リスク患者における二次予防として有望な、安価で入手容易な選択肢となります。

「これらの結果は、公的資金による臨床試験から得られたもので、非常に古く低コストの薬剤を全く新しい用途に転用したものです。」と、スイス・ベルン大学の筆頭著者ラース・ヘムケンス氏は述べています。「これは、従来の医薬品開発では見過ごされがちな治療機会を明らかにする学術研究の力を示しています。」

コルヒチンが全死亡率や冠動脈再建術などの処置の必要性に影響を与えるかについては、証拠が不十分です。本研究では、同薬が生活の質を改善するか、入院期間を短縮するかについ

ての情報は得られませんでした。著者らはこれらの分野でのさらなる研究が必要であると強調しています。

--END--

編集者向け注記：

『心血管イベントの二次予防におけるコルヒチン』は以下の URL で閲覧可能です：
<https://www.cochranelibrary.com/cdsr/doi/10.1002/14651858.CD014808.pub2/full>